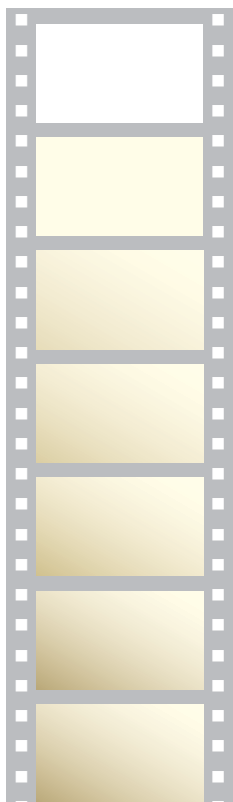


伸<sup>ノブ</sup>さんのシネマトーク

鈴木 伸夫



## 第三十六回 「ラジオ・デイズ」②

昭和30年代、少年少女のために売り出す月刊誌がたくさんありました。「赤胴鈴之助」は、「少年画報」という月刊誌に掲載され、ラジオドラマ（昔は連続放送劇と言った）としても制作されて、夕方、放送していました。（このラジオドラマは吉永小百合の芸能界デビュー作）

しかし、問題がひとつありました。記憶によれば、同じ時間、あるいは前後の時間にNHKの「子どもニュース」が放送されていたのです。

「何が問題？」というところ、「子どもニュース」で放送したニュース項目のうち、三項目をノートに書いて、翌日、発表することが毎日の宿題だったのです。

ラジオドラマはゆつくり聴きたいし、宿題のためにメモを取らなくてはいけないので、落ち着きませんでした。

しかし、いま考えると、担任の先生が、この時代すでに、放送を教育の材料に取り入れていたことは、ぎん新な教育方法だったと思います。

ところで、災害が発生するたびに、ラジオがいかに役に立つ重要なメディアかが再認識されますが、昭和20年代には、いまでいう「安否情報」といえる「タズビト尋ね人」という番組がありました。この番組は、戦争によって離散した家族の消息を伝える時間で、調べによると2万件放送され6千8百件が解決したといわれています。

多くの中学校時代は、昭和35年から37年の3年間でしたが、「こうせき鉱石ラジオ」（方鉛鉱や黄鉄鉱などの鉱石の整流作用を利用したAMラジオ受信機）。また、鉱石のかわりにゲルマニウムダイオードを使った「ゲルマニウムラジオ」が流行しました。

友達に作ってもらったので使い方しかわかりませんが、電気コンセントの片方にプラグを入れてやるとイヤホンからラジオ番組が聴こえるのです。

深夜になればなるほど、世界各国の音が入って来ました。

ぼくのお気に入りには、アンドリューススターズ（だと思えますが？）の歌う「素敵なあなた」がテーマソングの番組と、女性タレント（あるいは女優）のユーコさんが語るセクシームードあふれる話「今晚はユーコです」。この2番組でした。

トランジスタラジオがまだ発売される前の時代だけにチューニングがうまく合わ

ず、電波を捜しているだけで放送時間が過ぎてしまったこともあります。

そんな40年代、アメリカのラジオ時代を映画化したのが「ラジオ・デイズ」（製作・ロバート・クリーンハット、監督脚本・ウディ・アレン、出演・ミア・ファロー、ダイアン・キートンほか、音楽・デイック・ハイマン）です。

この作品は、その時代に流行した曲がスクリーンにたくさん流れて、音楽ファンには倍楽しめる映画の一本です。

（続）

（文中敬称略）

伸

平成24年2月

### 追記

「ぼくのお気に入り」から「この2番組でした」の文中、不明だった部分がわかりましたのでお知らせします。番組は、ラジオ関東（現在のラジオ日本）で放送した「素敵なあなた」、パーソナリティーは桜井優子さん。テーマ曲の「素敵なあなた」の原題は「BEI MIR BIST DU SCHON」（バイ・ミア・ピスト・ドゥー・シェーン）ジャズのスタンダードナンバーとして有名な曲です。コーラスは、「アンドリユー・シスターズではないか？」と書きましたが、視聴した結果、「キーリースミスとルイ・プリマ」のほうが聞き覚えがあります。パーソナリティーの桜井優子さんは詳細が判明しませんが、「こんばんわ ゆうこです」の挨拶から想像しますと、「2番組」は「素敵なあなた」という番組に包含されるのでは？と考えます。ご連絡下さった愛読者のSさんありがとうございました。